

# 第111回運輸政策コロキウム

観光地再整備の方法と推進方策

## 魅力ある観光地の舞台づくり に必要な視点

2012年7月5日

(公財)日本交通公社 大隅一志

# ■観光地計画の変遷

・時代ニーズに合わせて変化し続ける観光・観光地

| 年代              | 観光対象の変遷                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                      | できごと                                                                                                                                              |
|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1945年<br>(S20年) |  <p>物見遊山としての観光</p> <p>多様な楽しみとしての観光</p> <p>日本再発見としての観光</p> <p>豊かなライフスタイルとしての観光</p> <p>その土地(風土・世界観)を理解する観光</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・招待旅行・慰安旅行</li> <li>・修学旅行復活</li> <li>・新婚旅行が普及</li> <li>・大型温泉旅館増加</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・終戦</li> <li>・神武景気</li> </ul>                                                                              |
| 1955年<br>(S30年) |                                                                                                                                                                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・私鉄資本の観光地開発</li> <li>・スキー場開発</li> <li>・海水浴場開発</li> </ul>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>全国総合開発計画</li> <li>観光基本法公布</li> <li>・東京オリンピック／東海道新幹線開業</li> </ul>                                           |
| 1965年<br>(S40年) |                                                                                                                                                                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・農漁村の民宿増加</li> <li>・別荘地開発</li> <li>・まちなみ・郷土景観</li> <li>・ディスカバージャパン</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>古都保存法公布</li> <li>新全国総合開発計画</li> <li>・GNP世界第2位</li> <li>・大阪万博開催</li> <li>・沖縄返還</li> <li>・オイルショック</li> </ul> |
| 1975年<br>(S50年) |                                                                                                                                                                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ・レクリエーション活動</li> <li>・安・近・短</li> <li>・温泉・秘湯ブーム</li> </ul>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>第3次新全国総合開発計画</li> </ul>                                                                                    |
| 1985年<br>(S60年) |                                                                                                                                                                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・リゾート開発</li> <li>・キャンプ・アウトドア</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>第4次新全国総合開発計画／リゾート法</li> <li>・バブル経済の崩壊／湾岸戦争</li> </ul>                                                      |
| 1995年<br>(H7年)  | <p>その土地(風土・世界観)を理解する観光</p>                                                                                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グリーン・ツーリズム</li> <li>・エコツーリズム</li> <li>・産業観光</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>景観三法公布</li> <li>・9.11テロ</li> <li>・イラク戦争</li> </ul>                                                         |
| 2005年<br>(H17年) |                                                                                                                                                                                                | <p>求められる観光・交流の舞台とは？</p>                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>観光立国推進基本法／観光庁発足</li> <li>・世界金融危機</li> <li>・東日本大震災</li> </ul>                                               |

# 観光(地)を取り巻く変化

## 市場(旅行者)

- 個人旅行の増加  
→ 旅行の質・観光スタイル  
の変化 = **結果より、プロセス**を重視

消費の  
深化への  
対応

「どこへ行ったか」  
→ 「**どういう経験をしたか**」  
→ 「**どういう時間を過ごしたか**」

## 地域(観光地)

- 旅行者ニーズに対応した新たな集客手段の獲得
- 時間消費の増大(滞在・宿泊化)
- 新たなマーケットやリピーター、ファンの獲得
- 6次産業としての観光の展開(経済波及効果の高い観光、まちづくりとの連携)
- 地域の誇りの醸成 など

地域を深く味わう**体験型観光・着地型観光**の時代へ  
観光地としての空間(しつらえ)や受け入れ体制は？

# 地域が主体となり旅行商品をつくる時代

## 旅行のビジネスモデルの変化

発地型

送客ビジネス

発地側の旅行会社が地域のホテル・旅館などから大量に仕入れ、造成し、分厚いパンフレットを媒体として、安い旅行商品を販売

着地（地域発）型

集客ビジネス

「地域の情報」は、地元の人にしか知り得ない

旅行者を受け入れる地域の側が主体的に旅行商品づくりをしていくことが不可欠

発地側旅行会社が多様化・高度化する旅行者ニーズに対応した旅行商品を開発しようとしても、地域情報の不足、手間暇（コスト負担）から自力では商品開発ができない

# ■地域の魅力をどう引き出すか？

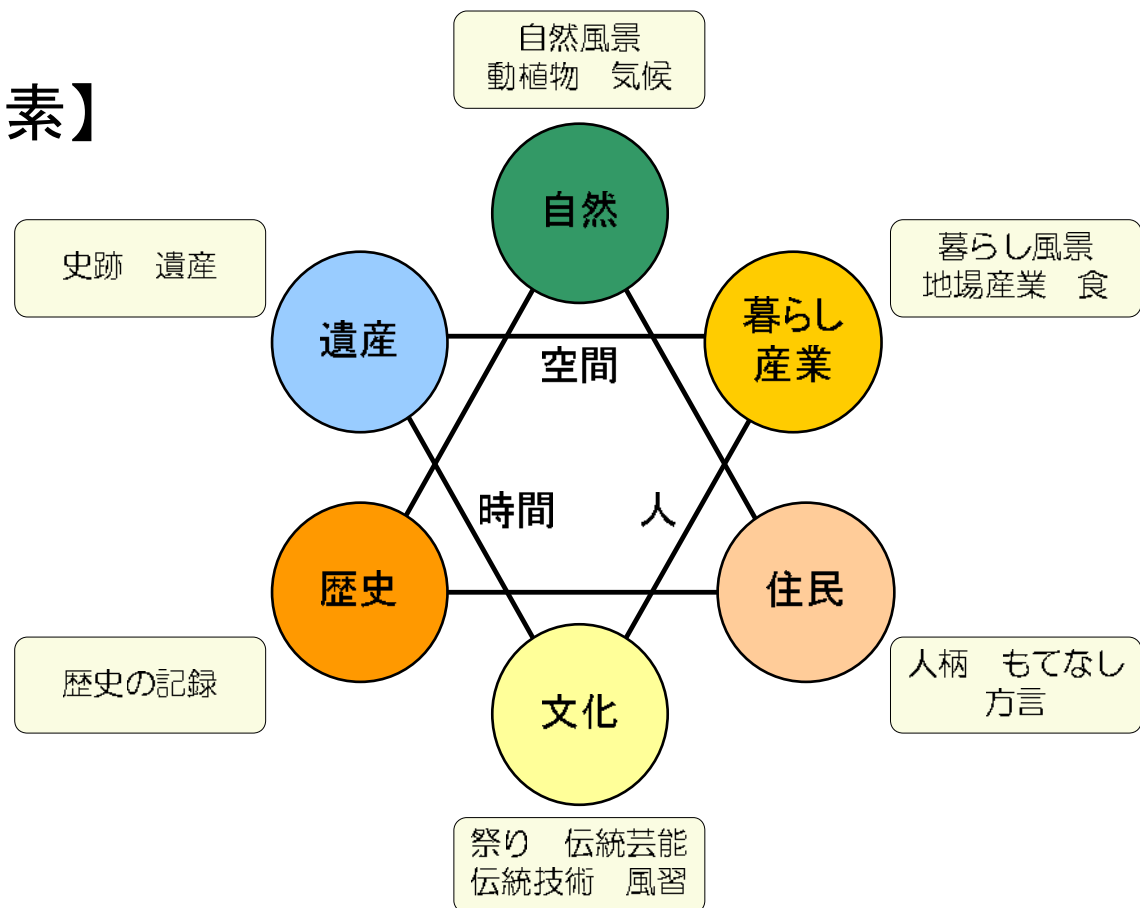
・地域側から見た観光：

「地域を誇り、その地ならではの体験やサービスを通して付加価値をつけ、総合的な経済価値に変える地域産業」

## 【観光地の魅力構成要素】

観光地の舞台として、どれだけ旅行者に見せられるか

- ・ハード：舞台装置（施設・環境）×ソフト（サービス、プログラム）を駆使
- ・ハレの場、ケの場
- ・集中と分散



# 世界遺産・白神山地の価値や魅力を伝えることのできるツーリズム



フナだけが白神の魅力か？

従来活用されてきた観光資源



白神と農風景

湧水・酒造り



マタギ・精神文化



海と白神山地



- ・お宝探しに終わらない価値の引き出し方  
→そこに必要な施設とは？
- ・魅力ある舞台の提供につながらない公共施設の多さ

# ■魅力ある観光・交流の舞台を創る

- ソフトとハードを両輪とした  
プロセスを大切にした観光地づくりが必要

【事例1】廃校をふたたび交流の拠点に  
秋田県鹿角市「中滝ふるさと学舎」

【事例2】「番屋エコツーリズム」の舞台の再生  
岩手県田野畑村「机浜番屋群」再生プロジェクト

# 事例1 廃校を再び地域の交流拠点に

## 「中滝ふるさと学舎」 (秋田県鹿角市)

開拓地・中滝地域のコミュニティ  
活動の拠点として50余年の歴史  
ある学校(平成20年11月閉校)

【ポテンシャルを最大に活用】  
ふるさと原風景がもつ代替  
のきかない資源をできるだけ  
そのまま活用

【市や地区課題への対応】  
地区の人口の減少  
農業の担い手の減少  
遊休農地の拡大 など

【観光課題への対応】  
低迷する十和田湖観光  
南の玄関口としての大湯温泉  
の宿泊客の減少  
通過型観光地化

【都市ニーズとのマッチング】  
都会人の求めるふるさと体験  
や癒しのニーズ

## 既存ストックから 新たな価値を創出！

既存施設を  
使い切る！

### “ふるさとライフ”コンシェルジュ 事務局

・ふるさとライフに関する相談・案内・情報提供  
・鹿角や地区の旬な魅力情報の発信

### 食文化の発信

・地域ならではの食材・食の魅力  
を伝える飲食サービス

### 地域の歴史の 保存・紹介

・学校や中滝地域周辺の歴史や  
自然を伝えるミュージアム



### 中滝ふるさと学舎

ふるさとライフ体験・学習・交流  
・特色あるふるさとライフ体験プログラムの  
提供(子供向け体験学習・大人の学校)

### セラピー・健康づくり サポート

・中滝セラピーロードやプール、体育館等を  
活用したセラピープログラムの提供





## 森のcaféこもれび (飲食施設)



## 人も食材も地産地消

- ・鹿角特産の食材をふんだんに使用したオリジナルメニューを常時10種類以上用意
- ・特性スイーツ
- ・調理員は中滝小学校卒業生(菓子づくりのプロ)



# 市民参加の検討会から、運営NPOを設立

- ・「かつのde“ふるさとライフ”コンシェルジュ設立検討会」を設立（平成20年度）
- ・市民、地区住民の意見・アイデアを活かしながら計画検討
- ・中滝小学校の卒業生・在職経験者にもアンケートを実施



交流施設を運営するため「特定非営利活動法人かつのふるさと学舎」を設立

## 計画のプロセスを重視

- ・人材（運営の担い手）の発掘・育成
- ・持続可能な舞台づくり（無理をしない計画）

## 地域らしい体験プログラムの提供 (NPOスタッフ、市民インストラクター)



森林セラピー



小学生の体験受け入れ  
(大湯温泉宿泊との連携)



## 事例2 「番屋エコツーリズム」の舞台の再生

### 「机浜番屋群」再生プロジェクト (岩手県田野畑村)

三陸の漁村文化を伝える番屋群

北山崎への立ち  
寄りには30分／村  
にお金が落ちない



村の暮らしに根ざした  
体験型観光への転換

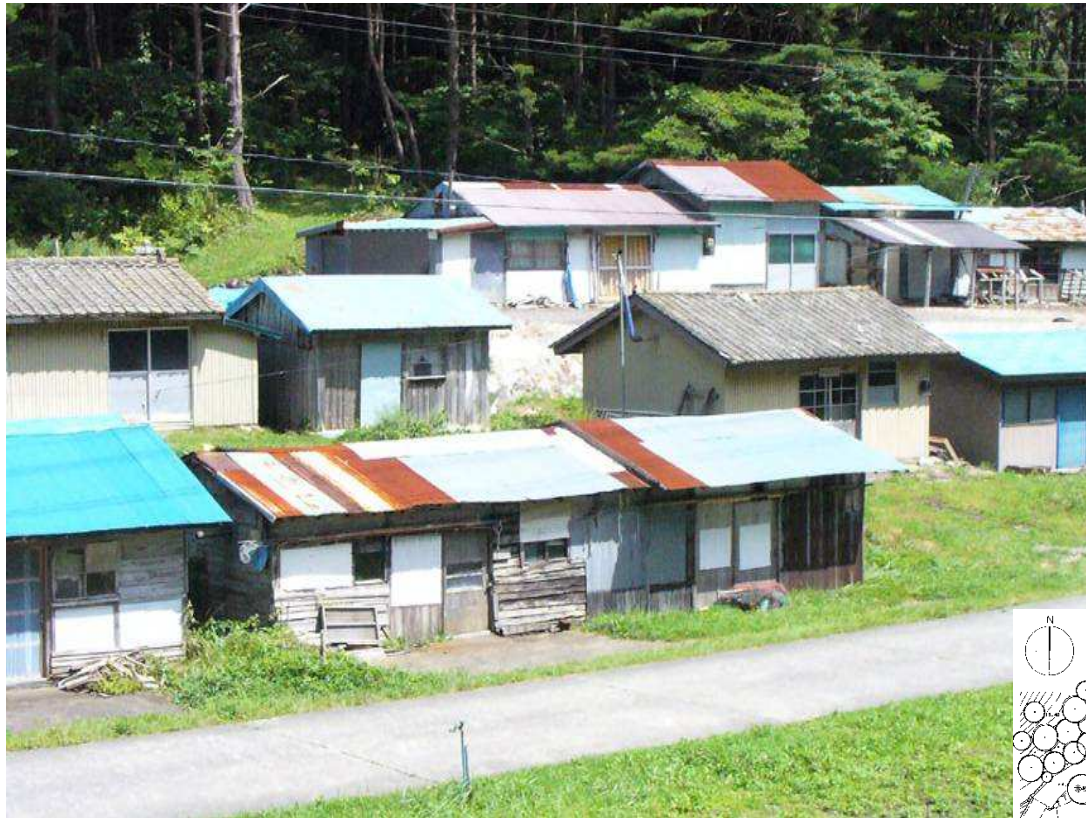
## 番屋エコツアー

「地域の暮らしを地域の人  
が観光客に伝える」

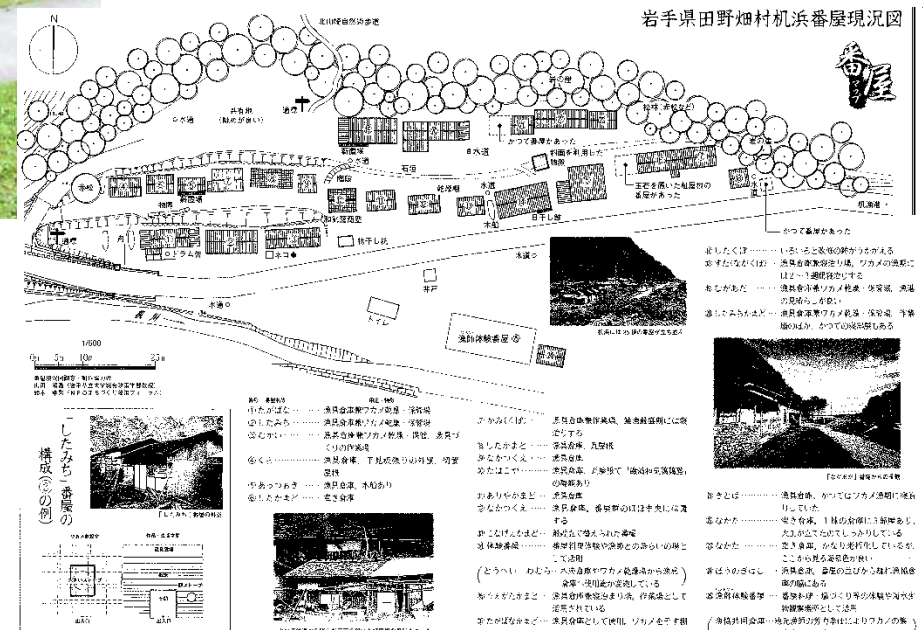
- すべてのインストラクターは地元民
- 暮らしに根差した会話を観光客の方と繰り広げる



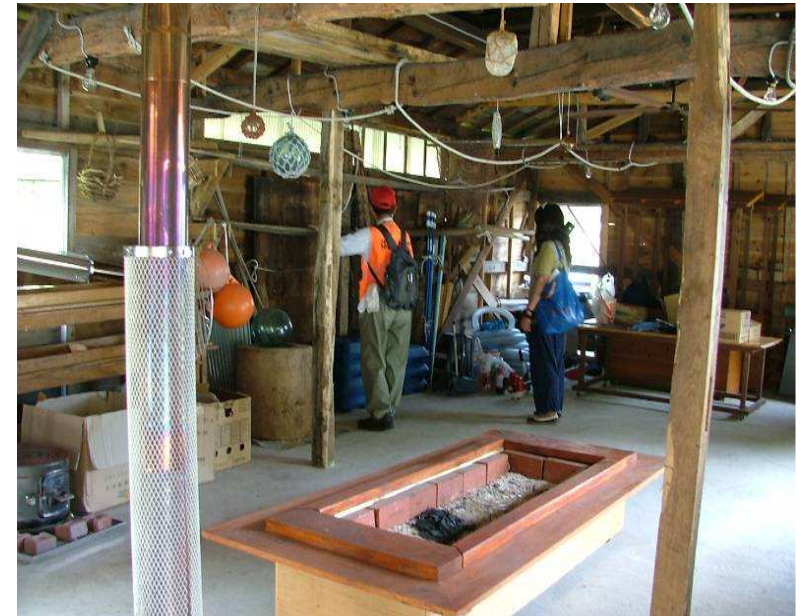
# 地区青年会による番屋群の保存活動



「未来に残したい漁業漁村の  
歴史文化財産百選」選定  
(水産庁2006年)



# 「番屋」を舞台としたエコツアープログラムの提供



営みから、自然の豊かさを伝える



サッパ船アドベンチャーズ

# 3.11 大津波襲来

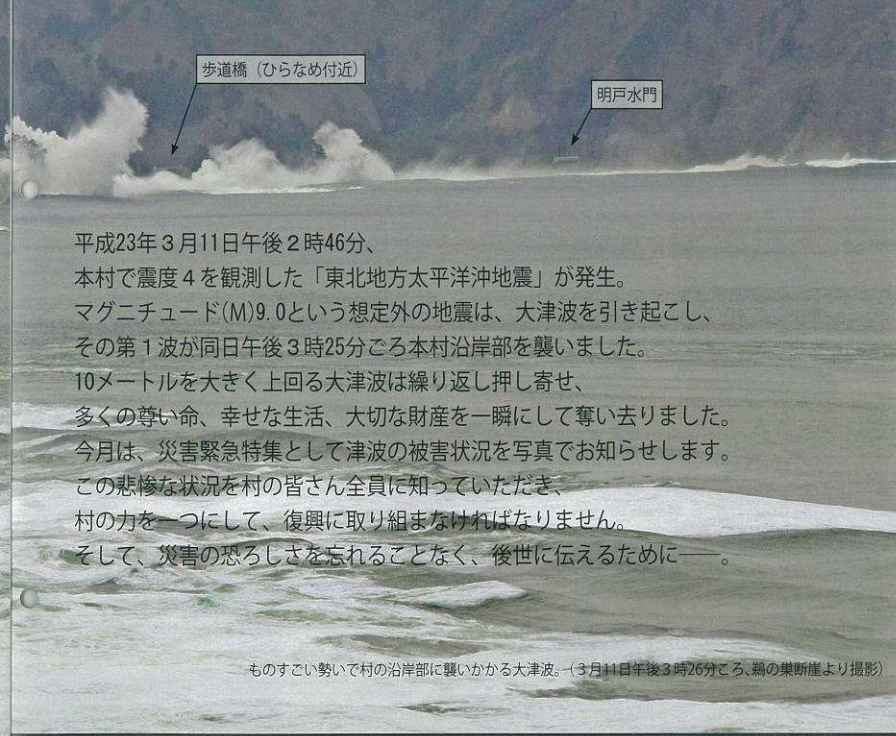


■本村の被害状況（4月6日現在）

| 項目       | 被害額        | 概要           |
|----------|------------|--------------|
| 住家       | 37億5923万円  | 267戸         |
| 非住家      | 10億4365万円  | 311棟         |
| 社会福祉施設   | 2億3681万円   | マレットゴルフ場など   |
| 消防施設     | 1億1826万円   | 積載車、消火栓など    |
| 観光施設     | 13億5550万円  | 羅賓荘など        |
| ガス施設     | 1億7880万円   | 製氷、冷凍、貯蔵など   |
| 水産施設     | 55億8934万円  | 漁船517など      |
| 漁港施設     | 19億8920万円  | 係留施設など       |
| 家畜関係     | 324万円      | 家畜36頭        |
| 林業関係     | 3243万円     | 林産物39,000本など |
| 公共土木関係   | 4億2600万円   | 河川6、道路19、橋2  |
| 公営住宅     | 4000万円     | 島越4戸         |
| 漁業集落配水施設 | 12億 800万円  | 2施設          |
| 水道施設     | 2億 500万円   | 2施設          |
| 合計       | 161億8545万円 |              |

死者17人、行方不明者21人（いずれも村民）。住宅や倉庫は、全壊495戸など582戸もの建物被害を受けました。水産施設の被害も甚大で、500以上の漁船を失い、養殖施設も壊滅しました。

停電や通信手段の断絶など、ライフラインも寸断され、その混乱は沿岸部のみならず村全体に広がりました。4月6日現在の被害額は160億円を超えています。次ページからは、被害状況を写真でお伝えします。



平成23年3月11日午後2時46分、本村で震度4を観測した「東北地方太平洋沖地震」が発生。マグニチュード(M)9.0という想定外の地震は、大津波を引き起こし、その第1波が同日午後3時25分ごろ本村沿岸部を襲いました。10メートルを大きく上回る大津波は繰り返し押し寄せ、多くの尊い命、幸せな生活、大切な財産を一瞬にして奪い去りました。今月は、災害緊急特集として津波の被害状況を写真でお知らせします。この悲惨な状況を村の皆さん全員に知っていただき、村の力を一つにして、復興に取り組まなければなりません。そして、災害の恐ろしさを忘れることなく、後世に伝えるために――。

ものすごい勢いで村の沿岸部に襲いかかる大津波。（3月11日午後3時26分ごろ、鶴の巣断崖より撮影）

M9.0。この国内最大のエネルギーに起こされた激震は、にわたって大きく揺れた。地震のエネルギー7年に起きた阪神淡路の数百倍にも相当する。震源は宮城県東部の深さは約24キロ、岩手県沖から茨城県500キロにも及び、本村では震度4を観測。地震発生と同時に災害対策本部が設置。14時49分に発表されると同時に無線で沿岸地区に避難指示が出た。宮古消防署員や村消防団員が指示して地区を巡る。しかし、M9.0が引き起こした津波は、防波堤を乗り越え、多くの命を奪った。そして、は目を背けたくなる。避難所のアズビ、不安な夜を過ごす。4月22日現在の村

## 「広報たのはた」2011年5月

# 三陸らしい漁村風景 の消失

被災後



被災前



# 机浜漁村番屋群



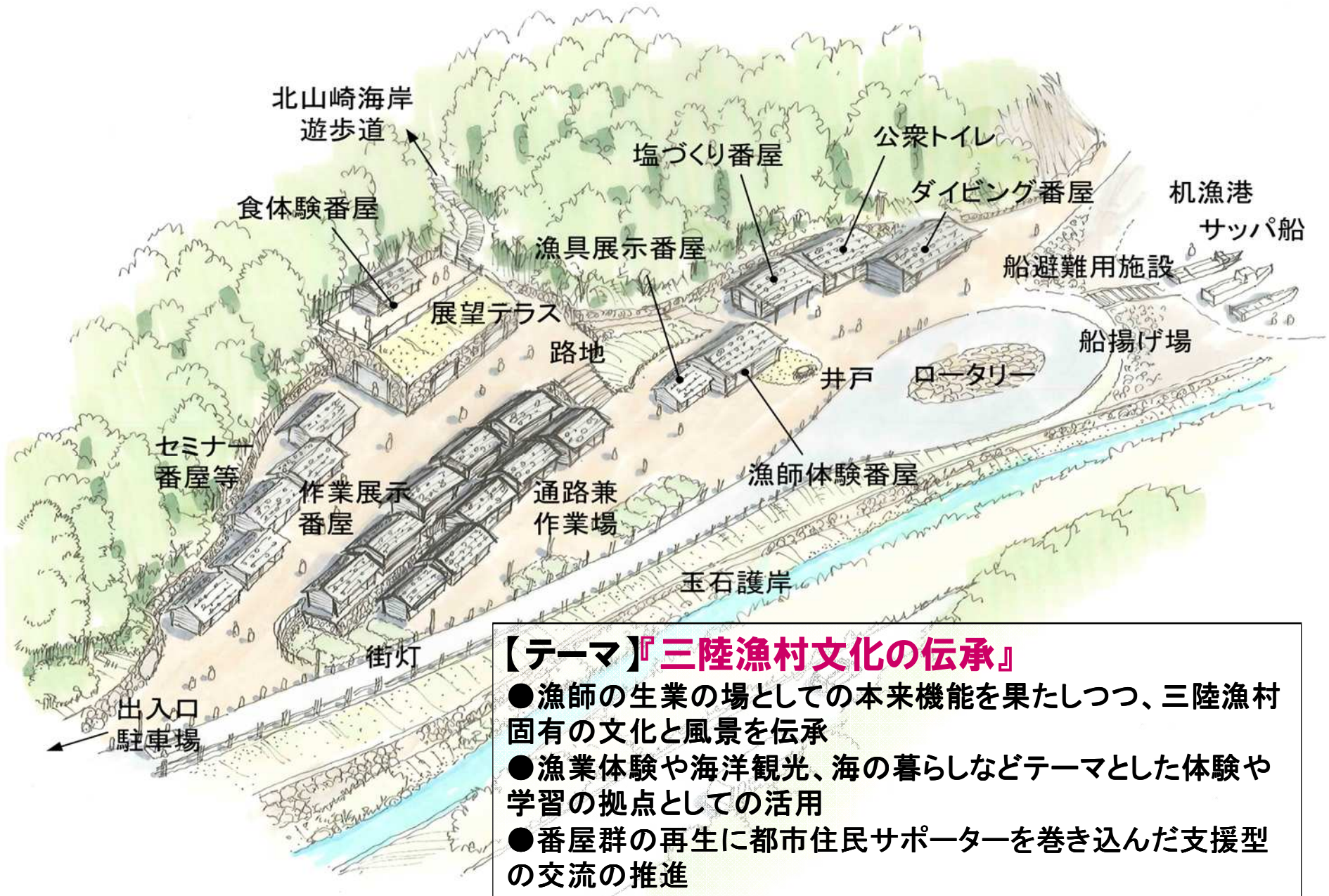
被災前



被災後



# 「机浜番屋群」再生プロジェクトの展開(イメージ)



# 番屋再生プロジェクトの手法

## ●漁師と都市サポーターが協働で創る

都市住民の社会貢献ニーズ、ボランティアという余暇の過ごし方・地域との交流の仕方

## ●外部からの資金を活用する

復興交付金  
都市住民をサポーター会費  
日本ナショナルトラストのパートナー事業(ファンドの活用)

東日本大震災からの復興支援  
つくえはま ばんやぐん

### 「机浜番屋群」再生プロジェクト



漁村の歴史と伝統が息づく

あの原風景を取り戻したい

「番屋群再生サポーター」にご登録を！

#### ■「机浜番屋群」再生プロジェクトとは

日本一の海岸美「北山崎」に位置し、漁村の文化や営み風景がそのままの姿で残っていた『机浜番屋群』は田野畑村住民と観光客との交流拠点として賑わっていましたが、3月11日のあの日、東日本大震災による大津波によって、一瞬のうちに跡形もなく流されてしまいました。

このプロジェクトは、田野畑ファンの皆様との『絆』、住民(漁民)と行政(村)の『結』により、村の復興のシンボルとなる新しい番屋群づくりを進めていく活動です。

漁村の原風景を取り戻したい。被災地田野畑村の漁村文化と一緒に再生したい。そんな想いを共有できる皆様へ、「机浜番屋群」再生プロジェクトへのサポーター登録をお願いいたします。

#### ■ 机浜番屋群 とは

田野畑村の机浜に現存していた25棟の「番屋」は、昭和8年の大津波以降の建築群で、主に漁具の収納やワカメ、コンブの乾燥作業場を目的にしたものです。漁夫の住居は時化や津波を避けるため、そして農耕や炭焼きをするために高低差約200メートルの高台に建てられましたが、漁期で忙しくなると海に近いこの番屋に何日も泊まりこみました。

昭和後期より社会環境整備や車の普及、漁業後継者不足で番屋の遊休化、廃屋化が進み、急速に漁村文化が失われようとしていましたが、地元青年会による保存継承活動がもとで、平成18年水産庁の「未来に残したい漁業漁村歴史文化財百選」に選ばれ、貴重な漁村の原風景をとどめるエリアとして観光客や田野畑ファンから愛されておりました。

# ソフトとハードを両輪とした 観光地づくり

- 地域の特性を活かした多様な観光の舞台の作り方が必要
  - ・1つの施設で旅行者を満足させる時代ではない
  - ・集中と分散、多目的性をもった施設(用途、季節・曜日)
  - ・観光客のためでなく、市民・地域住民の利用を考える  
(地域コミュニティと交流の接点をつくる)
- マーケットとのマッチング(価値観が重要)
- プロセスを大切にする
  - ・地域主体と人材育成～担い手の育成
  - ・魅力的な舞台(ハード)を創り出すためのソフトの活用
- 持続可能な観光の舞台づくり
  - ・成長・変化していける施設・環境・運営のしくみ
- 求められる事業手法の柔軟性
  - ・縦割りの行政の補助事業の転換
  - ・総合政策としての観光のポジショニング

**ご静聴どうもありがとうございました。**